
クリスマスツリーに短冊を

タナペン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

クリスマスツリーに短冊を

【Nコード】

N4656Y

【作者名】

タナペン

【あらすじ】

願いが叶うといいね。

けど、ツリーに短冊はやっぱり似合わないと思うな……。

クリスマスツリーに短冊を？

「よし、これで完璧」

「おっ、いいじゃん。あとは願い事書いた短冊付けるだけだね」

「えっ？ なにが？」

「なにがってなにが？」

「いや、今、短冊付けるって言わなかった？」

「言ったよ」

「あんたクリスマスツリーに短冊付けるの？」

「普通は付けるじゃん」

「普通は付けないよ」

「またまた」

「いや、本当だって。短冊付けるのって、七夕じゃん」

「七夕にも付けるよ」

「七夕しか付けないよ」

「あんた知らないの？」

「なにが？」

「七夕に願い事が叶わなかった人が、今度はクリスマスに願い事をするんだよ」

「そうなの？」

「そうだよ」

「じゃあさ、七夕に願いが叶った人は、クリスマスに願い事しちゃいけないの？」

「いや、そんなことはないよ。また新たな願いをすればいいんじゃない」

「あっ、そこらへん厳しくないんだ」

「厳しくないよ。キリスト様は誰に対しても公平だからね」

「七夕の彦星と織り姫は公平じゃないみたいない方だね」

「そりゃ、あいつらは公平じゃないよ」

「あいつらって……」

「あいつら自分のことばかりしか考えてないんだから」

「そうかな？」

「そうだよ。年に一度しか会えないからなによ！ 必死になっちゃつてさ。他の奴の迷惑も考えろよ」

「他の奴って誰？」

「私なんか彼氏と五年会ってないんだからね」

「そんなに？ 彼氏どこに住んでるの？」

「知らない」

「知らない？」

「五年前に急にいなくなって、それから音信不通」

「それってフラれたんじゃ……？」

「違う！ きつと連絡できない理由があるんだよ」

「理由ってなに？」

「分からないけど。とにかく私はずっと彼の帰りを待っているの。たぶん、私が予想するに……」

「予想するに？」

「なにかの事件に巻き込まれてるんだと思うんだ」

「なに？ 事件って？」

「そこは分かんないよ。あるいは……」

「あるいは？」

「謎の組織に変な薬を飲ませて、体が小さくなってしまったか」

「それって、コナンじゃん」

「コナンじゃないよ。私の彼氏だよ」

「設定はコナンだよ」

「なんだよ設定って。とにかくコナンじゃないから」

「まあ、別になんだっていいけど」

「ホントに……一体どこに行っちゃったのかしら、あの推理オタク」

「やっぱコナンじゃん」

「てへっ」

「1ミクロンもかわいくないよ。ていうか、あんたすごいね」
「すごいでしょ」

「いろんな意味で」

「いろんな意味ですごいでしょ」

「うん」

「とにかくクリスマスツリーの飾り付けは、短冊を付けて初めて完成するの」

「まあ、なんでもいいや」

「ほら、一緒に書こう」

「短冊用意してんだ」

「そりゃ用意してるよ」

「私、別に願い事なんかないよ」

「なに？あんた七夕に願いが叶ったの？」

「いや、そういうわけじゃないけど」

「じゃあ書きなよ」

「そう言われてもな」

「願い事なんにもないの？」

「まあ、特には……」

「本当に一つもない？」

「ないこともないけど……」

「じゃあ、それ書きなよ」

「うん」

「……………」

「……………」

「……………」

「……………」

「…………よし、と」

クリスマスツリーに短冊を？

「書けた？」

「まあ、一応」

「見せて」

「ええ〜？ 見せなくちゃいけないの？」

「そりゃそうだよ。私がちゃんと叶えられる願い事かどうか見てあげる」

「別にあんたが願い事叶えてくれるわけじゃないでしょ？」

「まあ、まあ、いいから、いいから」

「分かったよ……はい」

「うん。どれどれ……」

「……………」

「くだらねえ！」

「ええ〜！？」

「くだらなすぎて血吐き出しそうだわ」

「へどが出るじゃなくて？」

「ああ、そうそう、それ」

「間違え方おかしいけど」

「てか、あんたなんなのこれ？ 早くお嫁に行けますように〜？
アホか！」

「いいじゃん。願い事っていったらそれくらいだもん」

「あのね、こんな幼稚園児がするような願い事してどうすんの？」

「幼稚園児が早くお嫁に行けますようにって書くかな？」

「そりゃ書くよ。書きなぐるよ」

「いや、書きなぐらなくてもいいじゃん」

「もっと大人っぽいアダルティーな願い事はなかったわけ？」

「ないよそんなの。じゃあ、あんたはなに書いたの？」

「私は、あんたとは規模が違うよ」

「なに？」

「願い事が毎日一つずつ叶いますように」

「確かに願い事の規模が違う」

「でしょ？」

「願い事が毎日叶ったら、そりゃ幸せだろうね」

「幸せだよ。毎日がクリスマススイヴだよ」

「そこクリスマスじゃないんだ」

「なんでも本番前が楽しいんじゃない。クリスマスよりクリスマススイヴ。遠足より遠足の前日。七夕より七夕の前日」

「七夕の前日ってワクワクする？」

「しないの？」

「しないよ」

「あんたさっきからちよつと変わってるね」

「お前がな。てか、早く彼氏が帰って来ますように。って願い事すればいいんじゃない」

「それも毎日叶う願い事の中に含まれてるの」

「ああ、なるほど。なんか卑怯な気がするけど」

「卑怯じゃない。私は頭の回転が速いだけなの」

「いろんな意味でね」

「いろんな意味だよ」

「じゃあ、ツリーの明かり点けるよ」

「ダメ、ダメ」

「えっ？　なんで？」

「明かり点けたら、短冊が熱されて焼けちゃうじゃん」

「でも明かり点けないと雰囲気出ないじゃん」

「あんた願い事が叶うのと、明かりを点けるのでは、どっちをとるの？」

「明かりを点ける方」

「夢も希望もないわね」

「メリークリスマス」

「ほら、短冊燃えちゃってるじゃん」

「でも……」

「……綺麗」

おわり

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4656y/>

クリスマスツリーに短冊を

2011年11月13日03時15分発行